

キッズ ふくしま インたがだ

第8号

2018年7月1日

(発行)

キッズふくしまインたがだ実行委員会
(事務局)

〒943-0892

新潟県上越市寺町2-24-4

真宗大谷派高田教務所内

TEL:025-524-3913/FAX:025-524-2645

URL:<http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>

キッズふくしま

関わって

高田教区第六組 本誓寺

堀河 真淳

私がキッズふくしまと出遇って五年ほど経ちます。キッズふくしまは私にとって本当にたくさんの気付きをくれた活動です。

二〇一一年以降の話を子供たちからたくさん聞きました。「外で遊べなくて学校の中で遊ぶのがつま

キッズふくしまに

参加して

高田教区第六組 福成寺

鎮西 広円

今回初めて「キッズふくしま」の活動に関わらせていただきました。

震災から七年が経ちましたが、「キッズふくしま」に参加するまで、このような活動に参加することはありませんでした。「私は何かの役に立てるだろうか」との思いから、今回の参加に至りました。

らない、「卒園式を自分の園ではできなくて悲しかった」、「食べたい野菜が食べられなくて悲しかった」、「家を引っ越さなくてはならない」など他にもたくさん。

隣の県なのになにも知らなかった自分がいました。会うたびに今現在も震災は終わってないんだと感じます。子供たちから『このキッズふくしまという活動を無くさないでください。どんな形でも手伝いたい。あの時に新潟に来て楽しかった

期間中、大きな怪我や病気もなく、子どもたちは元気に思い思いの時間を過ごしていました。普段、子どもに関わることもなく元気に過ごす子どもたちの勢いにのまれていたように感じました。それほどまでに子どもたちは活発に動いてほとんど休む間も無く次へ次へと動いていました。

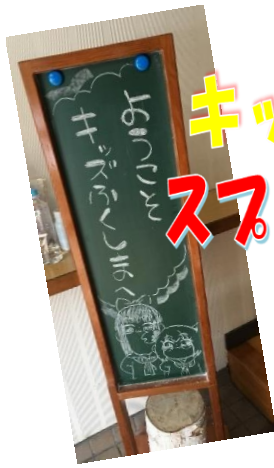
また、保護者からの私達へ宛てられたメッセージカードの一文で目に飛び込んできた言葉がありました。それは、「外へ出て遊ぶことが

し、思い出もたくさんできました。スタッフみんな大好きありがとう』と言われた時に、自分が思っている以上に子供たちにとって大事な場所になっているんだなあと気付かされました。無くなっている活動ではないと思いますし、これからも関わり続けたいと思います。

そして、私は池の平のセンターでの外で遊ぶ子供の顔が大好きです。

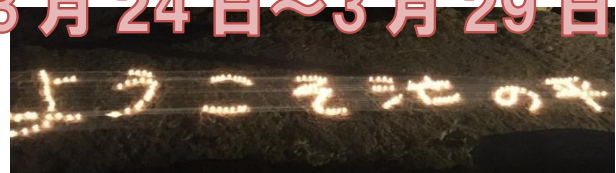
できない」ということです。今まで考えたこともありませんでしたが、当たり前のことができないという環境があることを知りました。子どもたちの行動を伺うことにより、まだまだ「外へ出られない」という状態であり、このような活動を行っていかねばならないのだと感じました。

最後になりますが、初めて携わらせていただいたことに感謝しております。



キッスふくしまインたかだ スプリングキャンプ2018

2018年3月24日~3月29日



池の平日程

3月24日~26日

雪を満喫

雪上レクリエーション





二泊三日の池の平日程二日目
 に行った、雪上レクリエーション
 の様子です。雪山を滑り降りたり
 穴を掘ってトンネルを作ったり、
 大きな雪像を作ったりもして一
 日雪の上で存分に体を動かしま
 した。
 幸い、眩しいくらいの日差しの中
 で、雪や雨の心配をせずに楽し
 むことができました。大きな雪像



やトンネルづくりは、決して一人
 の力では作り上げることはでき
 ません。みんなで協力して一つの
 ものを作り上げることの達成感
 や感動、喜びも同時に味わうこ
 とができたのではないかと思います。
 初めて参加してくれた子ども
 リピーターの子も一緒になつて



楽しんでる姿も印
 象的でした。
 子どもたちの元氣
 に大人たちが圧倒さ
 れてしまいました。

スタッフ募集!

※ お問い合わせは事務局まで

実行委員会では随時スタッフを募集しています。

～池の平会場において～

- ① 全日程通じての参加
- ② 短時間での参加
- ③ 食事の準備、片付け
- ④ 子どもたちと遊びたい人
- ⑤ 現地への送迎

～ホームステイにおいて～

- ① ホームステイの受け入れ
- ② 食事のみの提供 (そば打ち、餃子、BBQなど)
- ③ 催し物や行事の提供 (お講、子供会、陶芸教室、各種スポーツなど)
- ④ 資金の援助
- ⑤ 移動の送迎サポート



よろしくお願ひします!



家庭ではなかなかできない手打ちうどんづくり。スタッフから手ほどきを受けながら粉からこねて、最後にはみんな立派なうどんが出来上がりました。池の平日程最終日のお昼に手打ちうどんをみんなで食べ、それぞれのホームステイ先へ移動しました。自分で作ったうどんの味はまた格別だったことでしょう。



キッズふくしまに参加してみてもいい

ボランティアの声

新潟県立看護大学

波多野 愛香様

今回で三度目のキッズふくしまの参加となります。キッズふくしまには池の平青少年センターのスタッフとして参加させていただき、今回

のキッズふくしまに参加できるとなった時から「またみんなに会える！」と子どもたちと同じくらい楽しみにしていました。そして、元氣いっぱい、笑顔いっぱいの子どもたちを迎え、いろいろなことを楽しくのびのびと体験しながら過ごしている姿を見ることができました。

センターでは、ドクターK(科
学者並みの頭脳を持つスタッフ
フ)による科学実験レクリエー
ションや雪上レースもあり、う
どん作り体験など様々な催しが
行われました。子どもたちの中

には初めての体験といったものもあり、みんな楽しみながらも一生懸命取り組んでいる姿がありました。また、初めてキッズふくしまに参加する子どもたちや小学校低学年の子どもたちには、何度も参加している子どもたちや上の学年の子どもたちが分からないことを教えている場面も見られました。こうしたお互いに協力して取り組んでいた姿から、キッズふくしまでの活動が子どもたちの成長にも繋がっているんだと感じました。



ご協力いただいた看護大の皆さん



東日本大震災から七年が経ちましたが、震災で受けた傷はまだまだ回復途中であると思います。また、未だ子どもたちが思いきり体を動かす環境が整わず、運動不足など子どもたちの健康面も心配されます。そうした子どもたちが笑顔で、そして元気に過ごしている姿は、成長している姿に感じられます。これからも「キッズふくしま」という活動がこれからも続いてほしいなと思います。

キッズふくしまにお力添えいただきありがとうございます

「キッズふくしま」とは福島第一原発事故を機に始まった、福島県の子どもたちのための保養活動です。現地の声には、「個人宅の放射能除染が行き渡っていない」、「遊び場である公園に連れて行ったり、遊ばせたりする事が不安」などという声が聞かれます。また子どもたちからも「普段遊んでいた空き地は数値高いから遊べない」、「山に入っちゃいけないって言われた」等、大人は不安からのストレスに、子どもたちは遊び場を失うストレスに悩まされる日々が今だに続いています。

「キッズふくしま」は、大人たちが便利という言葉にごまかされて思考を止め、本当の安全を追及して来なかった事や、原発事故、放射能汚染等の負のバトン子どもたちに渡さなければならぬ事に対する「ごめんなさいから始める」活動です。子供たちが感じているストレスの軽減と、受けている内部被ばくの減少を目的として、たとえ一週間という短い期間でも汚染されていない地域で過ごし、思い切り遊んでもらいたいと思っています。ご理解の程宜しくお願い致します。

皆様からのご寄附をお願いします

- 郵便局からの振込 -

口座記号番号(ゆうちょ銀行)

00500-1-101787

口座名 キッズふくしま たかだ

- 他金融機関からの振込 -

店番 059(ゆうちょ銀行)

口座名 キッズふくしま たかだ

預金種目 当座

口座番号 0101787



**3日目 (3月26日)
~6日目 (3月29日)
ホームステイ**

ステイ先①



後半は各寺院でのホームステイです。それぞれのステイ先寺院で趣向を凝らし、来てくれた皆さんから楽しんでもらうためのイベントや施設訪問などを行いました。全てのステイ先を紹介することはできませんが、写真から子どもたちの楽しかった様子を垣間見ることができれば幸いです。
日常生活では味わうことのできない体験も多かったことと思います。たくさん思い出をお土産にして、皆さん元気に福島へ戻っていきましました。



ステイ先②



ステイ先③



ステイ先④



ステイ先⑤



インターネットで公開しています

これまでの「キッズふくしまインたかだ」の取り組み、今後の予定などを、たくさんの写真と共に随時アップしています。ぜひアクセスしてみてください。

なお、この広報誌はホームページにPDFデータでカラーアップされていますので、印刷してご利用ください。

ホームページ

<https://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/kidsfukushima/>

Twitter アカウント

<https://www.twitter.com/kidsfukushima/>

いつもありがとうございます。こどもたちは、帰りのバスを降りた途端に「次も行く」となり、大袈裟でなく1年中、キャンプの話をしています。ですから、できる限り長く続けて頂きたいと思っています。しかし一方で、現在参加させている保護者様がどれだけ「保養」という目的を理解されているのか・・・と思うこともあります。改めて考えて頂く意味でも、現実的なところで、私は参加者にいくらかの費用負担を求めた方が良くと思っています。スタッフの方たちが疲弊することなく、長く続けて頂く為に。

ちなみに、来年（H31年4月）小学校にあがる子たちから下は、放射線の低くはない時期に胎児期・乳児期を過ごしてきたものの、震災後に宿った命ということで、県の甲状腺音波検査の対象外だったり、違いもあり、ひっかかるものがあります（任意で受ける機会はあるんですが）。これも私が継続を願う理由の1つです。いつもいつも本当にありがとうございます！！

各方面からのご支援には感謝です。「キッズふくしま」は、子供たちにとっては、楽しみの1つです。色々な人の手をかりながら、自分たちで生活します。家に帰って来ると、一回りも二回りも大きくなったような気がします。これからは子供たちのためにご支援していただき、続けて下さい。

世間では、「もう7年。復興へ。」という感覚でしょう。しかし、私たちにとっては、未来への希望は感じられません。未だ、廃炉への道が示されていない原発への不安。地震が起きるたびに「原発は大丈夫か？」と不安が募ります。甲状腺の検査、内部被曝の検査など、まだまだ子どもたちへの負担も多いです。しかし、多くの保養受け入れ期間が終了してしまい、まるで見放されたような気持ちです。そんな中、「キッズふくしま」さんが、このように私たちの子どもたちを受け入れてくださっていること、とてもありがたく思います。おかげさまで、子どもたちは、新潟でのびのびと生活し、第2の故郷と感じています。お世話になった分、「大きくなったら何か、人の役に立つよう頑張りたい」と話すなど、幼いながらみなさんへの感謝の気持ちを抱いているのです。

子どもたちに、愛情を持って活動して下さっていること、深く感謝いたします。そして、どうぞこれからも、活動を続けて頂けますようお願いを致します。

“感謝” 震災当時の子供達の顔を私は忘れることができません。心の栄養がカラッポでした。私が小さい頃に泳いだ海も安心して泳ぐことができず、新潟での海遊びが何より楽しいものとなりました。毎回、参加後の子供達の帰ってからの顔を見ると栄養満タン！！ありがとうございます。これからも、この活動が続きますように願います。

スタッフの皆様、ホームステイを快く受け入れてくださったご家族の方々いつもありがとうございます。原子力災害から7年がたち、浪江町には帰ることなく、住んでいた思い出ある家を解体しました。ふるさとなくなった感じがします。ですが、何かの縁があつてすてきな出会いがあり、子どもたちにとって新潟はふるさとなのではないでしょうか。キッズふくしまの出会いで私も何かあれば手助けしたい思いが強くなりました。



御遠忌期間中にキッズふくしまの活動を紹介しました。そこに届けられた保護者からのへのメッセージの一部を紹介します。

毎回とても楽しく参加させてもらっています。帰路についた夜はキッズふくしまでの出来事をめっちゃ笑顔で話してくれます。私が守りたかった子供達の笑顔が溢れます！皆様、これまで子供達だけでなく私達親の心の支えになってくださりありがとうございます。感謝を込めて・・・

去年初めてキッズふくしまに出会いました。いわき市は震災後、放射能汚染水を海に流しているということで、7年経つ今も心配で子供を海に連れて行ってない状況です。去年のサマーキャンプで初めて新潟の海に入って「水がすごくしょっぱかったよ」と子どもから聞いた時は、その当たり前のことを震災以降経験させてあげられないことが親として悲しかったです。だから子供たちが安心して思いきり遊べ、色々な方々と触れ合える機会を与えてくれる「キッズふくしま」が親子共々大好きです。

今も根強く残っている風評被害、福島県人に対する冷たい態度、傷は今もこれからも小さな子どもたちの心をキズつけていくと思います。何一つ子どもたちは悪くないのに・・・。キッズふくしまに参加した子どもたちは楽しい体験を糧に、夢ある未来に一歩一歩進んでくれることと信じています。この会が永く続きますようお願いいたします。